

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900259		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都向島の家(1号館)		
所在地	京都市伏見区向島庚申町32-5		
自己評価作成日	平成27年12月2日	評価結果市町村受理日	平成28年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosvoCd=2690900259-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通り上ノ口上ル梅浜町83-1[ひと・まち交流館 京都]1階		
訪問調査日	平成27年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お陰様で向島の家もまもなくオープンより3周年を迎えます。向島の家のモットーとしてご利用者の自由と尊厳を尊重し大切にしながら笑顔・笑い声・感謝の声の溢れる場にするを目標としてご利用者様、ご家族様ならびに職員一同協力し合いながらホームの運営を日々行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伏見桃山にほど近い宇治川に架かる親月橋を渡って、宇治川の堤防を少し東に歩き南に下がると、明るい色調の外壁を持つ3階建の建物がある。グループホーム「京都向島の家」である。一階は、小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、2・3階が2ユニットのグループホームである。平成26年2月に静岡県浜松市に本拠を置く、医療法人社団長啓会が開設された。「政本グループ」として医療施設や介護事業所を手広く展開し社会貢献している。グループを象徴するロゴは“四つ葉のクローバー”で表している。事業所の理念に「入居者一人ひとりを大切に、笑顔あふれる場」にしたいという思いを表現している。この思いを実現する為に、働き易い職場環境づくりを大切に、職員の笑顔が入居者の笑顔に繋がる様な支援に努めている。所得に捉われず、安心して入居出来る様に行政とも連携しながら取り組んでいる。本部から毎週ファックスで伝達事項・情報等が流され朝礼で全職員に伝達している。関連事業所の職員が必要な情報・知識等共有し、一体となってサービスの質の向上に繋げられる様な工夫をしている。入居者・館長・職員が共に穏やかな笑顔で過ごしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週本部より送付される朝礼文により常に目に触れ認識実践できるよう努力している。	理念を「利用者様の自由と尊厳を尊重し大切にしながら笑顔・笑い声・感謝の声の溢れる場にする」としている。入居者・家族・職員が一体となって協力関係を築いていける様に、日々の支援に取り組んでいる。本部から毎週届く朝礼文にも、政本グループの理念や運営目標を記載し全職員が共有する様に努めている。職場環境を良好にする事で、入居者が“楽しく暮らせる”と考えて実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員から近隣の方への挨拶は勿論のこと、入居者の散歩時や会議地域のイベントへの参加などで話しかけたり話しかけられたりして交流を図っている	自治会長や学区の社会福祉協議会会長と密接な協力関係が出来ている。地域の“ふれあい祭り”“防災訓練”等へのお誘いもあり、出来るだけ参加したいと考えている。日常的には、散歩やお出かけ時に近隣の住民と挨拶を交わし、親近感を持って貰える様に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで近隣の方に参加して頂く取り組みを始めたところです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状や問題点などをプリント配布し会議出席者の皆様にご意見を頂戴しサービス向上に活かしている。	会議には、社会福祉協議会会長・町内会長・地域包括支援センター職員・職員が出席している。事業所から現状報告・行事等報告した後出席者で活発な情報・意見交換を行っている。在宅での認知症の方の対応についてや地域のイベントへの参加・事業所の夏祭りに地域住民のお誘いについて等双方向での交流に関した意見が交わされている。	会議の参加者が少ないものの、意見交換では夫々の立場で活発な意見が出されています。しかし、幅広く意見を聴取する為には、色々な立場の方の参加が欲しい所です。ご苦勞しておられる様ですが、引き続き検討を望みます。地域性もあり、家族様の事情もあるでしょうが、社協の会長様や自治会長様とも相談されたり、会議の内容を工夫されては如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当ケースワーカーに報告、相談をこまめに行い緊密な関係を築いている。	運営推進会議の議事録を行政に持参した時や介護保険の認定更新時などに、担当職員と情報交換を行い協力関係を築く様に努めている。地域包括の連絡会にも出席し情報・意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本拘束ゼロで今までのところは対応できている保安上の問題でエレベーターのみ暗証番号を設置しているが他フロアへの移動や外出対応を職員同伴ではあるが柔軟に行っている。	年間研修計画に「身体拘束等の排除のための取り組みについて」として組み入れ研修を行って全職員が認識する様に努めている。身体的な拘束だけではなく、入居者の行動を抑制する様な声掛けや言葉遣いなどにも配慮している。	

京都府 グループホーム京都向島の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を通して認識・理解を深め職員同士のカンファレンスや管理者からの助言などで虐待防止の土壌を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複数の利用者様が後見人や日常生活自立支援事業を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い個別案件にも対応しご理解ご納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に対しても個別にお話を伺う時間も取っており、御家族様来訪時にはご意見をいただくようにしている。	家族等からの意見や要望に関しては、来所時や電話での連絡時等で聞き取る様にしている。入居者からは、日常生活の中で聞き取っている。家族等から運営に関する意見や要望は殆どないが、座る場所の件で「最近座る場所が変わったが？」という話が家族から出て「入居者同士の人間関係で席替えをした」と説明し納得して貰った事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回ではあるが定期的に行っている職員会議にて職員の意見や提案を聞く機会を持っていて良い意見はすぐに反映するようにしている。	日常的には、業務の中で管理者や職員間で話し合う事が多い。フロア会議や職員会議の中でも意見交換してサービス向上に繋げている。本部からは、毎週情報が伝達されており、館長は京都地区の管理者の会議に出席し、相互で情報・意見交換を行っている。本部からも管理者が参加して、それぞれの事業所の意見を聞く機会にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定や福利厚生などの改正などに積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修受講を薦めており資格取得などにも協力的にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居時や入所相談などで関係性の出来た事業所との情報交換などを多くはないが行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心安楽を元に笑顔で積極的な関わりを持つようになっている。積極的に関わりを持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	折あるごとに積極的にコミュニケーションをとりご家族様の不安不満な点を傾聴しお互いの信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通して本人様の状態を出来るだけ把握し且つ本人、ご家族様の要望を聞きサービス内容を検討決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをお願いするなど出来る事は積極的に参加して頂くなど共に生活しているという意識を利用者様、職員共に感じられるような雰囲気づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに家族だけで過ごされる時間、職員を交えて過ごす時間を組み合わせて行い共に支えあうといった意識を共有できるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に次回来訪を促したり出来得る限りの外出支援(近所への散歩、買い物同行)を行っている。	知人等の来訪があればリビングでゆっくりと談笑できる様に心配りしている。家族と一緒に外出して食事をして来られる事もある。近くの伏見港公園やドライブを兼ねて紅葉見物に出掛けている。併設の小規模多機能の利用者とも交流して、新しい馴染みの関係を作っている。	

京都府 グループホーム京都向島の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置の工夫や様々なレクリエーションの導入 緩衝材として職員が介在することによって暖かな団欒の場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて相談に乗れる体制を準備している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場面場面ごとや必要に応じてご本人様への意思確認を行っており職員に対しても利用者本位の立場に立って行動するよう指導している。	初回面談で、本人・家族等から生活歴や心身状況・今後の意向等聞き取って、情報収集シアセスメントシートに記載している。入居後は、日常生活の様子を記録して一人ひとりの思いを把握する様に努めている。家族等や医療関係者からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを読み込み、面会者が来られた際には昔のお話をお伺いしたりしながら情報を収集し連絡ノートや随時行うカンファレンスなどで情報を職員間で共有するようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりなどから得た情報を各種記録、カンファレンス、申し送りなどを通して情報の精査、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	通院時には医療職と密な連携を持ち、面会時にはご家族様ならではの視点からの要望をお聞きし日々の様子観察などからその時点で最もふさわしいケアプランを作成していく。	日常生活の中での、言葉や行動等を記録し纏めて、モニタリングに繋げている。その結果に基づき介護計画の見直しを行っている。定期的を実施しているが、状況の変化等必要に応じて行っている。不安事例や薬の変更等医療面での情報・家族の意見等も含めて話し合い、実情に沿った介護計画を作成する様に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に気が付いたことや気になったことも合わせて申し送りし検討が必要なことなどはカンファレンスの題材としている。		

京都府 グループホーム京都向島の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて柔軟に支援できるように取り組んでいる。 (現在は訪問理美容サービスを利用している)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	見学といった形ではあるが地域の防災訓練やふれあい広場などに参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携協力病院があり職員が定期受診に付き添っており病院とも良い関係を築けている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族等の希望を尊重している。協力病院の場合は、送迎車があるので職員が付き添って受診している。受診時に日常の様子を報告し医師から状況説明を受けて、双方向で健康管理に努めている。希望により訪問歯科の診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており情報を共有して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より提携病院は勿論のこと近隣の病院の地域連携室等と密に連絡を取り情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と話し合いを持ち出来る事と出来ない事を説明し支援していく。	本人の心身の状況・家族の事情等に配慮しながら、医療関係者・家族等・事業所と話し合いを重ねて、最も適切な支援を提供したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応をマニュアル化している。会議の時などにも事例を挙げて対応方法の学習をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に二度行って避難の方法等を学んでいる。	防火管理者を選定し、消防計画に基づき年2回(昼・夜間を想定)防災訓練を実施して全職員に周知させている。運営推進会議に於いても、地域の防災訓練参加について話し合っている。備蓄は食料品等保管している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重することを心掛け入室時などにはノック・声掛けをしてプライバシーに配慮するようにしている。	年間研修計画に、「倫理・法令遵守・プライバシー保護について」「接遇について」を組み込み全職員に周知させている。理念にも「個人の自由と尊厳を大切にしー」と表明している通り、言葉遣いや行動に気を付けながら日々の支援に努めている。特に、排泄・入浴の支援時にはプライドを傷つけたり・プライバシーを損ねない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わり合いを大切にし何でも話し合える関係を築けるように努力している。自己決定を行いやすいような質問の仕方などを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来得る限りその方のペース・希望に応じた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を毎月第一木曜日に行っている。 衣類なども本人の好みのものを着ていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番の楽しみともいえる食事の時間を楽しんでいただける様に支援している月に二度昼食時にリクエストなどを受けて職員が手作りをしている。 食事準備や後片付けは職員と共に行っている。	楽しい食事を大切にしており、三食の献立はバラエティに富んでいる。昼・夜は給食センターから弁当の形で運んでいるが、食事の直前に温めて提供している。定期的に入居者の好みを聞き取り職員が昼食を作っている。入居者は、役割を決めて食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。おやつに“たこやき”等をみんなで作って楽しむ機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事提供を行い、個人別に食事量や水分量のチェック表を活用している。		

京都府 グループホーム京都向島の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアへの声掛けを行っており、出来ない方については職員が介助し行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら排泄パターンを個人別に把握し声掛けを行うなどして失敗を減らせるように支援している。	トイレでの排泄を大切にしており、個人の状況に合わせて声掛けや誘導の支援を行っている。現在の所、特に改善した事例はないが、現状維持の状態である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は小まめに声掛けなどをして促しており食事前には体操を取り入れるなどして運動の時間を作れるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来得る限り本人の希望にそった入浴をしていただける様に考えてはいるが人員上の為時間帯は限られてくる。	限られた時間内ではあるが、体調や気分・希望等を配慮しながら、ゆっくりと入浴して貰える様に支援している。浴槽の湯は毎回入れ替えて気持ちの良い入浴タイムにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて昼寝や居室での休息を取っていただいているが夜間良眠出来るよう日中は活動的に過ごしていただけるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方副作用などの説明をファイルしてあり職員がいつでも確認できるような状態にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じた活動やお手伝いを職員と一緒にしている。楽しみにされているTV番組などがあるときにはフロアに集まって皆さんで鑑賞していただいている。		

京都府 グループホーム京都向島の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族の希望にそって買い物や散歩、ドライブなどをおこなっている	日常的な外出は、天候を見ながら近隣の散歩や買い物に出掛けている。初詣・花見・紅葉見物等季節行事にはドライブを兼ねて出掛けている。伏見港公園や宇治橋などに近いので、季節毎の外出には恵まれている。家族等と出掛けるのを楽しみにしている入居者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望や金銭トラブルの原因になる可能性がある為施設にて金銭管理を行い、買い物同行時も職員が管理している。例外的に影響のない金額を所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の取次は勿論希望に応じて電話を掛けてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調にて温度の管理を行い、時折換気を行うなど配慮している。行事の写真や通信などの掲示を行い話題作りのきっかけを作っている。	玄関や廊下・リビングなど共用の空間は、落ち着いた色調でゆったりした感じになっている。リビングの窓には暖色系のカーテンが掛けられ、適度な明るさと穏やかな雰囲気を感じられる。壁には、入居者と職員の共同作品で季節を感じられる様に工夫している。不快な音や臭いもなく、入居者と職員の笑顔があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各場所に座れる場所を確保しており思い思いの場所で寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ馴染みのものを持ってきていただくようお願いし安心して暮らせるように支援している。	部屋は、大きな窓に暖色系のカーテンが掛けられ落ち着いた感じになっている。家具類を使い易い様に配置して、壁には好みの作品が貼られている。物入れは引き戸ではなく、カーテンと同じ布で仕切り使い易い様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事はしていただくように残存能力を維持していただける様、声掛けの仕方や援助方法について職員で話し合っている。		